

表紙モノ語り

オーストラリア・アボリジニのアクリル画 「ミツアリのドリーミング」

民族：ピチャンチャチャラ 国名：オーストラリア
作者：ジャネット・ハーバート 46x56cm
1987年収集、H0149428



久保 正敏

民博 文化資源研究センター

オーストラリア中央砂漠地域のアボリジニの人たちには、儀礼の際に各部族固有のドリーミング（神話体系）を様々な抽象紋様を使って砂絵やボディペインティングとして描く伝統があった。各紋様は文脈により意味が異なる。民博オセアニア展示場に砂絵シンボリズムの一部が図解されている。ドリーミングは、公開レベル、神聖レベル、秘密レベルなど多層の意味を持つので、その表現に多義的な紋様は便利なのだ。

一九七一年、中央砂漠のパプニアに白人美術教師として赴任したジェフリー・バードンは、生徒が砂に描いていた紋様を紙に描くように勧め、それに大人たちも関心を寄せて校舎の壁にドリーミングを描くことになつた。アイデンティティに深く結びつく本地域の抽象紋様が西欧の画材で表現された最初の出来事であり、その際に描かれたのが、地名の由来であるミツアリのドリーミングだった。やがて、アボリジニたち自身が美術運動を立ち上げ、カンバスとアクリル絵の具を使い、砂絵の紋様を描き、描いてはいけない秘密の部分を中心に描で埋める、というスタイルが確立し、周辺のコミュニティにも広まった。バードンの努力によって美術界に販路も確立、モダンな印象の点描画が好まれたのか八〇年代には国際的に知られるようになり、今や世界的な画家が数多く生まれている。働きアリの一部が腹に蜜を貯めるミツアリは、砂漠で糖分を得る貴重

な食材なので、この地域の部族グループの多くがミツアリのドリーミングを持つ。ミツアリは深い地中に空洞と通路を作るので、地下水脈や泉はミツアリの巣から生じると信じられており、ミツアリのドリーミングの多くが泉と結びつく。

この絵でも、旅するミツアリの目指す聖地の巣から生じた泉が中央に描かれ、人を表すU字型と掘り棒を示す三本の線の組み合わせは女性を表し、巣を掘り返そうと周りに座っているさまを表す。U字型が人を表すのは、砂上に残る尻跡の形から。このように、地表の痕跡に基づく紋様が多いのは、採集狩猟生活では痕跡が大事な情報源だったからである。

